

TPiCS レポート

新 TPiCS (現在の Btrieve 版) が完成しました。

熟成度は DOS 版や発売後 2 年経った旧の Windows 版と比べればまだまだですが、予定した機能は、一通り織り込むことができました。

今回の完成は TPiCS-IV だけですが、続いて VIII、Arrow (8 月完成目標)

また J、テキストファイル読込の各サブプログラム等 (9 月完成目標) も、続いて開発しております。

マニュアルも、IV 用は 7 月中旬完成予定、VIII や J も順次作成して行きます。

さらに今回は、マニュアルと同等の詳しいヘルプも作成します。

そして IV VIII J 系のシステムは、全て秋までには揃え、本年中に新 TPiCS (現在の Btrieve 版) へ完全に移行して行きたいと思えます。

新 TPiCS (現在の Btrieve 版) 完成にともない、旧 Visual Basic 版の TPiCS のサポートは、徐々にクローズ致しますので、

出来るだけ早い時期にバージョンアップなさせて頂き下さるようお願いします。

また、新 TPiCS (現在の Btrieve 版) では新しいオプションシステム **TPiCS-Data Pipeline** を作りました。

複数のデータベース間で、データを相互に かつ自由に流し込むことが出来るシステムです。

全社のデータを一括管理する巨大なデータベースと、TPiCS が所要量計算するデータを分離したい、しかし二重インプットなど勿論やりたくない、その為 2 つのデータベース間の関係を取りたい。

そんなニーズに応えるオプションシステムです。

Oracle や、MS-SQL Server を使って構築された全社システムの中で、私が生産管理屋として一番大事と考える“レスポンスの良い生産、しかし安定した生産”を、実現する為にはどうしたら良いか？

考えた末の答えが、この **TPiCS-Data Pipeline** です。

今回のテーマ

- 新 TPiCS (現在の Btrieve 版) について
- TPiCS に関する誤解
- Delphi について (巻末)



昨年の 12 月に TPiCS-IV と J をご購入頂き、Windows NT サーバと 11 台の Windows 95 上で、使いはじめたあるユーザー様が、先日クライアントを増設なさるということで、わざわざお寄り下さいました。

「お蔭様で、TPiCS が動きはじめました。

動きはじめたら、“おれの所にも”と言う人が増えクライアントを 3 台増設する事にしました。

現在、ウチの工場で生産している製品の 6 割程を、TPiCS に移行しまして、残りの 4 割も 年内に移行出来る見込です。

ウチの工場の様子を聞いて、A 工場 B 工場も TPiCS を使いたいと言って来ています。

その時は、また宜しくお願いします」

こちらこそ「宜しくお願いします」なのですが。

「それはまた 随分早いですね」

「そーですよ。

今回は巧くいったと思っています。

なにしろ この工場は、それまでパソコンが 2~3 台しかなく、OA 的な環境は全くなかったのです。

しかし、今回のプロジェクトの為に、Pentium Pro

200MHz のパソコンを 30 台揃えまして、殆ど一人 1 台の環境をつくりました」

「それは、大変な気合の入れようですね。

普通 導入時の“仕掛け”をあまり立派にすると、“仕掛け負け”をして まともに立ち上がらないことが多いのですが...

ハードだけ揃えてもだめですからね。

なにか、訳がありそうですね」

「ええ。実は 社長が、今度の 6 月末で任期満了になるのです。

ついでに“在任中に完全には言わないが、何とか TPiCS を動くようにして欲しい”と命をうけました」

「しかし そこまでは、珍しい話ではないですよ」

「そうです。

私も 他の工場で経験がありますので、ハードやプログラムを用意しただけでは 駄目なことが判っていました。

色々考え、今回は“全員に絶対コンピュータを使うよう”社長に明言して貰ったのです。

“これからは、事務職の人間は全員コンピュータを

使って仕事をする。使えないとか、いやだと言う者は会社をやめて頂くか、使わなくてもよい仕事に変わって貰う”と、ここまで言って貰いました。従来の生産計画表や、部品手配台帳などを使うことを禁止し、メモのやり取りまで禁止しました。メモの代わりに、社内の E-mail です」

「それは、凄いですね。

それでも、“出来る”“出来ない”の話がありますよね。落ちこぼれた人もいましたでしょ」

「それが やはり、みんな生活が掛かっているから、頑張ったみたいですよ。

ギブアップした人は一人だけでした」

「凄いですね、指導や教育はどうなさったのですか？教室みたいなものを開いたのですか」

「いや、私の勤務時間を少しずらして、夕方5時半から“相談所”の様にして、“解らないことを聞かせる”様にしたのです。

マニュアルを渡し、本当に簡単な説明だけしかせず、後は“自分で勉強して下さい”です。

さすがに TPiCS のマニュアルを渡して“自分でやれ”は、無理ですから 私が当社用に書き換えてそれを渡しました。

以前、別の工場で、何時間にもわたって教室を開き説明したことがあります、結果は 今度の方が良かったですね」

私は、この話を聞いて“まさしく 答え だな”と思いました。

全く逆のケースもあります。

殆ど同じ様な時期にシステムを購入頂いた方から「導入にあたり困っていることがあるので相談したい」と電話がありました。

「当社では、毎月 部品発注をする時、色々 検討票を作り、丹念にチェックをしてから発注をしています。従来のチェック内容を変えずに TPiCS を使う為には どうしたら良いかを 教えて頂きたい」という主旨です。

いつも言っていることですが、今回も同じ答えです。

「従来のやり方で 問題がなければ、従来の仕組で 困っていなければ、従来通りで良いのです。なにも、これまでのやり方を変えなくても良いのです。システムを使わなくても、いや使わない方が良いでしょう。

しかし、困っているなら、やり方を変えなくては、問題解決できないですよ。

- ・得意先からの注文がコロコロ変わって困るとか、
- ・従来 2ヶ月先の納期で廻していたけど、最近 競合他社が 1.5ヶ月で品物を納めるようになり、苦戦しているとか、

- ・得意先が“内示と確定注文の発注方式”を採ると言われ慌てているとか、

- ・逆に、従来の手配方法では 生産計画が決まって（？本当は決められないのに）から、1週間経たないと伝票が切れなかった為、迅速な対応がとれなかった、など。

それらの問題が、今のやり方や仕組を変えずに解決できるならそれが良いでしょう。しかし 変えないと解決出来ないなら、変えなければなりません。

部品手配の仕事は、仕組を変えなければどんなに頑張っても、1日 多くても2日 短縮するのが精一杯ではないでしょうか。

勿論 TPiCS は、伝票発行の仕事が早くなるだけではなく、顧客ニーズに迅速に応え、しかし安定した生産が出来ることを目指すシステムです。

会社として、従来の方法のままが良いのか、レスポンスの良いもの作りの仕組に移行することが良いのか、どちらにメリットがあるか考えて下さい。

私は、この仕事を長くやってきたので、小手先で問題解決する知恵も無いわけではありません。

しかし、小手先のアイデアを出しても駄目なんです。なんの問題解決も出来ず終わってしまいます。

これらの問題は、苦い思いをしないと なかなか解らないのですけどね」

電話の声が、若い方様だったので、上の方と このような主旨で良く相談していただくことと、研修会にご参加頂きたい旨を申し添えました。

- **新 TPiCS (現在の Btrieve 版)** もインターネットのホームページにアップロードしました。他のシステムと同様、金曜日の午後から夜にかけ最新版に更新しています。月曜日にお取り下さい。

<http://www.tpics.co.jp>

ダウンロードして頂けるのは、DOS版や旧 Windows 版 TPiCS のユーザー様、及び TPiCS の登録 SI 様だけです。

インターネットでは、ダウンロードが正常に出来ないことがあるようなので、弊社のコンパイルしたてのプログラムのチェックサムとファイルサイズと確認照合して頂けるようにしました。

チェックサムを計算するプログラムをダウンロードして頂き、それを使ってダウンロードした TPiCS のチェックサムを計算し、ホームページに掲載されている値と比べて下さい。

もし、その値が違うようでしたら、もう一度ダウンロードして下さい。

- 2,000 年対応済みの DOS 版の Ver 3 を 初めてご案内したのが去年 9 月 (No43) の TPiCS レポートでした。その時申しました様に 1997/9 末までは バージョンアップは無料ですが、10 月以降は有料になります。古いバージョンのシステムは、時を追ってサポートが難しくなります。是非お早めにバージョンアップをなさして下さい。今度の新 TPiCS (現在の Btrieve 版) も、1998/9 末 (来年です。お間違えのないよう) までは バージョンアップを無料で行いますが、それ以降は、有料にいたします。

新 TPiCS (現在の Btrieve 版) について

新しいシステムを開発し、このレポートでご案内する時、いつもは心ときめくものを感じながら原稿を書くのですが、今回は「さて何を書こうかな」という感じです。

それは新 TPiCS (現在の Btrieve 版) では“生産管理”として新しい機能を、殆ど追加出来なかった為だろうと思います。

新 TPiCS (現在の Btrieve 版) は、

- ・ WindowsNT Server をベースにした、
- ・ Oracle や MS-SQL Server 上で動く
- ・ 32ビットの Windows プログラム

にしましたが、それらは「物を清々と作る」ことには、全く関係ありません。

有機肥料を使い 太陽の光を浴び 完熟した野菜の方が、うまいし 栄養価も高いのを知っていても、虫食いの野菜では お客様は買ってくれないし、曲った胡瓜だと店頭で並べて貰えない と、農薬を使い、土を深く耕すより 胡瓜に重りをぶら下げることに労をとられてしまう農家の気持ちが良く判ります。

とはいえ、価値の無い仕事をしてきた訳ではありません。やはり“使いやすい”ということは“良いこと”ですし、“データベースとしての拡張性”が高くなるのも勿論“価値のあること”だと、思います。“見栄えが良くなる”のも、決して悪い話ではありません。逆に、私が 生産管理面の機能強化を棚上げして取り組んだだけの価値はある仕事をしたつもりです。

前回のレポートでご説明してきた内容は、出来るだけ簡略化して書きます。

1 動作環境

クライアント

OS : Windows95、或いは WindowsNT4.0 以降
メモリ : 32M 以上

サーバ

WindowsNT Server 或いは NetWare、
その他、UNIX系サーバも可能のはず。

2 データベース

- ① Oracle:Enterprise Server、WorkGroupServer が使えます。Oracle は別途購入が必要。
- ② MS-SQL Server : Oracle と同等に使用できます。MS-SQL Server も別途購入が必要。
- ③ Btrieve : 前回のレポートでは、ODBC 経由で Btrieve を使う方法を説明していましたが、TPiCS 自身が ODBC ドライバを使うと、DOS版 TPiCS の Btrieve データと互換性が無くなってしまうことが判りました。他に方法がなければ“やむなし”ですが、6月末に発売される Delphi の Ver 3 は、データベース操

作機能を我々がカスタマイズ出来るようになることなので、ODBC を使わない方向で実現しようと考えています。

(Delphi Ver 3 は、7/6 現在 未着の為 まだ出荷されていないよう)

Btrieve 上で 新 TPiCS (現在の Btrieve 版) が動くのは、8月以降になります。

- ④ MS-Access のデータベース : Jet Engine データベース
上記 Delphi の Ver 3 から、MS-Access のデータベースを直接扱えるようになります。

正確に表現すれば「Delphi が、“Microsoft-Access のデータベースが作るデータファイルと同じ形式のデータファイル”を利用することが出来るようになり」、解りやすく表現すると「MS-Access が新 TPiCS (現在の Btrieve 版) のデータを非常に簡単に使うことが出来る」様になります。従来は、MS-Access が Btrieve データをアタッチとか、ODBC の機能を利用して操作していましたが、今度は それらの媒体無しに直接操作できるようになる訳です。

MS-Access のデータで新 TPiCS (現在の Btrieve 版) が動くのも、8月以降です。

選択肢が増えると、“何を選ぶか”を考えなくてはならなくなりますが、こんな基準で考えて頂ければ良いかと思えます。

- (1) スタンドアロン 或いは 小規模データで、MS-Access でカスタマイズを行いたい場合は、MS-Access のデータベースが良いと思えます。
(スピードや安定性及び排他制御やトランザクション機能などまだ不明ですが)
- (2) 中規模以上のデータ量がある場合、Btrieve。
5年間 Btrieve を使って来ましたが、スピード、安定性、機能、コンパクトさ、価格どれをとっても 現在もベストだろうと思えます。
- (3) 余程特殊な事情がある場合、Oracle や MS-SQL Server のデータベースをお使い下さい。
しかし 実際には、基幹業務のデータベースを Oracle でまとめたユーザー様も、TPiCS-Data Pipeline を使い、通常の所要量計算等には Btrieve や MS-Access のデータベースをお使いになることをお勧めします。

3 新 TPiCS (現在の Btrieve 版) の新しい機能

- ① キーボードとマウス操作の関係を改善しました。
Windows 系の業務システムの最大の欠点は、キーボードとマウスを持ったり放したりしなければならない点です。
「マウスは、パソコンの入力方法としては理想的な物である、手が3本ある人にとっては」というジョークがあるように。
そこで 新 TPiCS (現在の Btrieve 版) では、処理

内容を切り換える場面や フォームを移る場面では、マウスで操作するが、キーボードに一度手を置いたら出来るだけキーボードだけで処理が進められるようにしました。

- ② ⑫ 作業量計画 のフォームと、⑪ 生産計画表のフォームを連係出来るようにしました。

⑪ 生産計画表を訂正すると、⑫ 作業量計画の山積みが連動して変わるようにしました。

これは、今のところ 新 TPiCS (現在の Btrieve 版) で実現した唯一の純生産管理面の機能強化です。DOS 版では、メモリの制約で機能強化がだんだん難しくなって来ていましたが、今回の新 TPiCS (現在の Btrieve 版) から、32ビットプログラムになったので、これからは、やりたいことは何でも出来るようになりました。今後を是非ご期待下さい。

また、⑫ 作業量計画のフォームから、⑪ 生産計画表を開いたり、二つのフォームが常に同じカーソル位置 (年月日) になるよう自動調整されるようになりました。

- ③ ⑪ 生産計画表、⑭ 稼働カレンダーで、ウィークリ表示が出来るようにしました。

また、殆ど全てのデータで 1件1葉の“明細フォーム”を開けるようにしました。

旧 Visual Basic 版では、アイテムマスターしか“明細フォーム”が無かった為、とても使いづらかったのを改善しました。

- ④ ⑳ 製品構成表で ビジュアルなツリー表示が出来るようにしました。

旧 Visual Basic 版では、製品を指定する度にインデックスを作る為 素早い表示が出来ませんでした。新 TPiCS (現在の Btrieve 版) では インデックスを作らない方式 (DOS 版と同じ) に戻しました。

さらにこのツリー表示と ⑪ 生産計画表を連係出来るようにした為、新 TPiCS (現在の Btrieve 版) では今のところ実現していない「生産計画の構成順の表示」も、カバー出来るのではないかと思います。

- ⑤ 実績インプットの操作を大幅に改善しました。

検索機能、選択機能、数値インプット、操作途中のキャンセル、また 登録済みデータの抹消や 訂正など、ボタンクリック一発で操作出来るようにしました。

判り易くすると、慣れてきた時に煩わしいとか、その逆の問題を、見事に解決しました。

これは、さすがに Windows 環境でなければ出来ない機能です。

- ⑥ データの検索機能及び絞り込み表示の機能を強化しました。

フォーム右端にあるインデックスボタンをクリックするだけでインデックスを切り換えることが出来、また 指定エリアと呼ぶ入力エリアにキーワードをインプットするだけで、順次データが

表示されます。

また、絞り込みは、それ以上の機能強化をいたしました。

設定パネルで、キーワードを入力し ボタンをクリックするだけで非常に複雑な絞り込みが出来るようになりました、従来の and の関係だけでなく or の関係でも絞り込むことが出来ます。

これは、ボタンクリックにより SQL 文を自動生成しデータベースに投げかけることにより実現しています。その SQL 文を自由に書き換える言わばエディターのような機能も付属していますので、さらに複雑な条件で絞り込むことができます。

その絞り込まれた内容で、印刷や一括変換処理等、通常の TPiCS の処理を行うことが出来ます。

月例の分析資料を作る時など、その絞り込み条件を毎月使用するような場合は、SQL 文をテキストファイルに保存しておけば、次回はその SQL 文のテキストファイルを読み込むことが出来ます。

- ⑦ ⑬ 伝票発行で、毎日の発行処理が、簡単に行えるよう、操作性を改善しました。

毎日繰り返し行うようなものは、いちいちメニューを選択しなくても処理出来るようにしました。

- ⑧ ⑭ 稼働カレンダーで、新規データの作成が判り易く また簡単に出来るようにしました。

- ⑨ 誤操作防止の為、各フォームごとに“書き込み禁止”を設定出来る様にしました。

また、普段の処理では、書き込み禁止にした方が安全な項目は、それとは別に禁止解除を設定出来るようにしました。

勿論 クライアント毎にその内容を設定することができます。

- ⑩ 使用するフォントの種類や、フォントサイズを指定することができます。

また、使用する CRT の解像度に合せ TPiCS の表示する大きさを調整することが出来るようにしました。

従来の Visual Basic 版では、間延びしたフォームがあったり、フォントを指定できなかつたりで、見苦しかったのを調整できるようにしました。

- ⑪ 処理のログを書き出せるようにしました。

TPiCS の処理経緯を後から追跡出来るようにログファイルに記録出来るようにしました。

- ⑫ 簡易エディターを付けました。

通常のエディターの様にテキストファイルを編集できますが、特に INI ファイルや、ログファイル、また所要量計算のジャーナルをボタン一つで表示できます。

- ⑬ マニュアルと同等の内容をもつヘルプを付けます。(7月中旬)

- ⑭ その他
各種機能の設定方法等も含め、判りやすく使いやすいものにしました。

4 カスタマイズ方法

新 TPiCS (現在の Btrieve 版) では、従来の Visual Basic 版の様に画面廻りのソースを公開することはいたしません。

前回のレポートでご説明した内容と同じですが、

① DLL サブルーチンを使う方法

10 個の主要機能の DLL サブルーチンを作りユーザー及び登録 SI 様には公開しますので、32 ビット DLL を操作出来るツールを使えば、独自の画面からインプットすることも出来るようになります。

- ・所要量計算サブルーチン
- ・伝票データ作成サブルーチン
- ・分割発注マスターを見て伝票データを分割するサブルーチン
- ・実績インプットするサブルーチン

等 その他

旧 Visual Basic 版では、陽の目を見ませんでしたでしたが DLL サブルーチンを使い、

所要量計算→作業量山積み→伝票発行→確定処理までを一連で行うサンプルプログラムも添付します。また、Visual Basic 版の時の様に「単価履歴マスター」のサンプルプログラムも作る予定です。

② MS-Access 等を使って直接 TPiCS のデータを操作する方法。

データベースのテーブル情報 (ファイルレイアウト) を全て公開するので、MS-Access 等を使って帳票を自由に作り出すことが出来ます。

新 TPiCS (現在の Btrieve 版) では、MS-Access のデータベースを直接共有出来るようになるので、カスタマイズ性が大きく向上します。

TPiCS に関するよくある誤解

何号か前のレポートでも誤解をテーマに書いた記憶がありますが、今回はその第 2 弾です。

誤解その 1

「TPiCS に生産管理の基本機能しかなく、実際に使うためにはカスタマイズが必要である」という誤解。これは、TPiCS をまだよくご理解頂いていない販売店さんが、よくお持ちになる誤解です。

確かに 従来もしくは 他社の “生産管理システム” を基準に考えると、TPiCS は約 100 万円という安い価格に設定してあるので “大したことが出来ないだろう” と思えるのかしれません。しかしこれは大きな全くの誤解です。

事実 TPiCS ユーザーの半数は、カスタマイズ無しに使っている筈です。

TPiCS は、**マスター登録は勿論、受注データの入力から、所要量計算、伝票発行、部品受入れの実績インプット、生産実績のインプット、進捗管理、買掛明細**

③ テキストファイル経由でデータをやり取りする方法。

従来の様にテキストファイルのインターフェースも持ちますので、簡単なことならこれで充分です。

5 既存データの移行

従来の Windows 版 TPiCS は勿論、DOS 版 TPiCS で使われてきた Btrieve のデータは、次の手順で完全に移行することが出来ます。

① TPiCS Ver 3 をお使いの場合、

Ver 3 の TPiCS の 99 バックアップで書き出されたデータは、新 TPiCS (現在の Btrieve 版) がバックアップ及びリストアで使用するファイルと同じ形態です。

それは新 TPiCS (現在の Btrieve 版) のデータベースが何であっても同じです。よって DOS 版 TPiCS Ver 3 の 99 バックアップでデータを書き出し、それを新 TPiCS (現在の Btrieve 版) の **バックアップ** フォームでリストアして下さい。

また “逆も真なり” で、万一、新 TPiCS (現在の Btrieve 版) の処理がおかしいような場合も、DOS 版で処理を行うことが出来ます。

② TPiCS の Ver 2 以前をお使いの場合、

一度、Ver 3 のデータにコンバートしてから、①の方法で移行します。

6 バージョンアップ料金

Visual Basic を使った旧版から新 TPiCS (現在の Btrieve 版) へのバージョンアップは、1998/9 月までは無料です。

DOS 版 TPiCS から、新 TPiCS (現在の Btrieve 版) へのバージョンアップは、DOS 版と Windows 版の定価に差がありますので、差額を頂戴しバージョンアップして頂くことが出来ます。

書の発行、原価集計、出荷管理、出荷実績のインプット、請求書の発行、売掛明細書の発行、さらに、現場に端末を置いて 生産指示を出したり、その端末から 実績をインプットしたり、あるいは、データをテキストファイルに書き出して他のシステムに渡す。または 他のシステムで作ったテキストデータを読み込む、... 等々

通常の仕事だけでなく、非常に広範囲な業務まで TPiCS が用意した機能を使うだけで 実現することが出来ます。

誤解その 2

「バージョンアップが有料だ」と思う誤解。

先日ある SI 様から「TPiCS は頻繁にバージョンアップをしている様なので、その都度バージョンアップ費用を取られるのは嫌だ」と誤解している方がいたと、お聞きしました。

これはチョットしたショックです。

過去 12年間 バージョンアップで 1円もお金を貰ったことはありません。

これも、他社と同じレベルで考えると理解できない点でしょうから、誤解なされるのも やむをえないかと思いますが、とにかく“ただ”です。

未来永劫 無料でバージョンアップを行う約束はできませんが、出来る限り続けていきます。

バージョンアップ料金に関する現在の基本的考え方は、

① **定価に差額が無いものは、無料。**

例えば、Windows 版は、Visual Basic 版も 新 TPiCS (現在の Btrieve 版)も 定価が 120 万円ですから、Visual Basic 版から新 TPiCS (現在の Btrieve 版)へは 無料で交換して頂けます。

DOS 版 どうしなら、Ver 2 も Ver 3 も 90 万円ですから、そのバージョンアップも無料です。

② **定価に差額が有るものは差額を頂戴する。**

例えば、DOS 版は 90 万円ですが、Windows 版は 120 万円です。

よって、差の 30 万円は頂戴いたします。

③ **バージョンアップではありませんが、機種変更は、ハードキーの付いているものは、無料ですが、ハードキーの無いものは、有料です。**

DOS 版の場合、98 で使っていて DOS/V に変える時、TPiCS 本体はハードキーが付いていますから、無料で交換します。

しかし、DP や A2 関係のサブシステムは、買い換えて頂きます。安いものですからお願いします。

④ **ユーザーズマニュアル等は、有料にさせていただきます。しかし簡単な「機能強化説明資料」は無料です。**

新 TPiCS (現在の Btrieve 版) の開発には Borland 社の Delphi を使いました。

半年間 Delphi を使いましたが、Delphi は 使えば使うほど その凄さを感じました。

今回 これだけのシステムを 私を含め実質 4 人、わずか半年で開発出来たというのは、大変なことです。

全く新しい道具を使い、Oracle や MS-SQL Server を利用する、流行りの言い方をすれば「クライアント/サーバシステム」を開発した訳です。

その“大変さ”は、Visual Basic を使った前回のケースを思い出してみれば、その意味が明確になります。

Visual Basic の時は、とにかく主だった機能をまともに動かすだけで“精一杯”という感じで、それ以上のことを考える余裕が全くありませんでした。DOS 版と同等のレベルまで 細かな設定が出来るようにする為には、その後 いつまでも時間が必要でした。ところが 今回の新 TPiCS (現在の Btrieve 版) では、もう既に DOS 版と同等の機能を備え終わりました。それどころか 前述の様に「簡易エディター」まで、システムに付けてしまいました。

二次的なことではありますが、今回はこんなことまで気を廻すことが出来た訳です。

先日「二ノ宮さんが Delphi を使うと聞いたので、私も C をやめて Delphi に移りました。

Delphi ! いいですね。

過去 C を使って書いたプログラムが 4~500 本にあるのですが、それらも 2,000 年対応しなければならぬので、皆 Delphi で書き換えようかと思っています」

と仰っていた方がいました。私は初代 TPiCS の時から 約 12 年間、PASCAL を使ってきたので、Delphi に対する目は“ひいき目”があるだろうと思っていましたが、C を使っていた人まで、Delphi を気に入ったということは「これは本物」だと、確信しました。

別のある S I さんからは「うちの大手ユーザーから、やはり 2,000 年対応をからめ 全社システムを再構築したいのだが、ツールは Delphi を使いたい。Delphi を前提にして引受けてもらえるかと 打診がありました。

さん Delphi ってそんなに良いのですか？

私も評判は聞いているので、これを機にウチのメイン言語を Delphi にしようかと思っているのですが」と相談を受けました。

地方の、最大手のコンピュータディーラーさんです。

「よくぞ私に Delphi のことを聞いて下さった！」と、その良さを説明しました。

しかし 別の S I さんからは「Delphi を使ってウチも開発をはじめたのですが、思うように仕事が進まないのです。

誰か Delphi を手伝ってくれる人 知りませんか？」という話を聞いたことがあったので「この話も事実ですから、きっと 万人に向いている訳ではないのでしょうか」と、付け加えるのは忘れませんでした。

昔 Borland 社が Delphi の前身を“Turbo Pascal”とって販売していた時代。

(と言っても TPiCS の DOS 版は、今も Turbo Pascal を使って開発していますが)

半分冗談で“Turbo Pascal は良い”と言うのを止めました。なぜなら、その話を競合他社が聞き、Turbo Pascal を使い始めると困るから」と言っていました。

それほど“Turbo Pascal”は、良いコンパイラでした。

しかし、一時期、Windows 化が始まり、開発ツールとしては“Visual Basic しか無い”と言ってよいような時代がありました。

その時は、やはり心細い思いをしました。

旧 Visual Basic 版 T P i C S はその時代に開発着手した訳です。

時代の移り変わり、世の中の移り変わりと同時に環境や道具も、新しくしていかななくてはならないのを実感します。

と いうことは、また 新しい良い開発ツールが出てくれば、また乗り換えなければならない訳です。

この業界は、いつでも過渡期です。

次に発売されるものをあてにして待っていたのでは、いつまで経っても、先に進むことが出来ません。

その時その時、ベストのものを使うしかないのだと割り切らざるをえません。

「2～3年毎にシステムを作り替える」

この覚悟がなければ、この業界では生きていけないのではないかと思います。

大事なことは、新しい技術を早く修得し、早く作れる“力”を持つことです。

着手してから1年も2年も経っていたのでは、出来た時はもう陳腐化した商品になってしまいます。

逆に気をつけなくてはいけないのが、“ただ新しければ良い”という誤解をもってしまわないことかもしれません。

先日、土曜日も開催していたので Windows World Expo に行ってきました。

● その中の小さなブースで、パソコンのメモリをテストする機械を展示販売しているのを見つけました。

自分で毎日パソコンを使っていて、Windows 環境になってからは メモリの不具合が原因で誤動作をしたのを経験していたので、話を聞いてみました。

メモリの良否判定は 非常に難しいようで、簡単なチェックでは 見つからないことがあり、そのくせ システムを動かすと誤動作をするようなことがよくあるそうです。

DOSの時代には気にしたことはありませんでしたが、Windows 時代になってから私も注意しています。価格が安くなってきた為、検査があまくなったのでしょうか。

パソコンの動作不良は、従来ハードディスクか、ネットワーク関係だけとっていました、やはり メモリも疑わなくてはいけないようです。

● 小さなブースには面白いものが展示されていることがよくあります。

プログラム開発に使うエラーチェッカーの展示ブースです。

エラーチェッカーをかけながらターゲットのプログラムを動かすと、その実行中 メモリ誤操作などをすると、それを検出してくれるツールです。

そこで話をしていたら「このチェッカーはOSのエラーも検出するのです。見ていると WindowsNT4.0は 3.51 と比べると 発生するエラーがズート多いようです」

二ノ宮